

# 2025年度 公益社団法人東京都診療放射線技師会 厚生調査委員会アンケート調査結果

## 『ワークステーション作業の実態調査』 厚生調査委員会

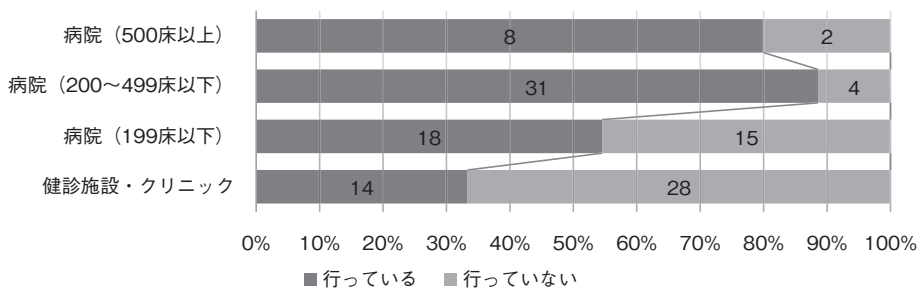
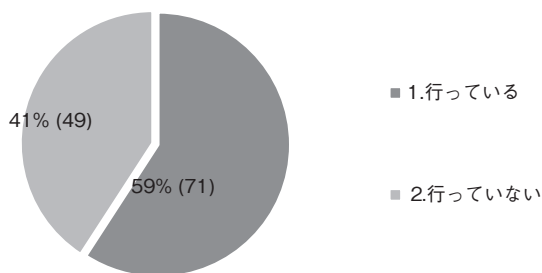
多くの施設のご協力をいただき実施した2025年度アンケート調査の集計結果をご報告致します。

調査期間：2025年12月29日～2026年1月31日  
回答方法：Webブラウザを利用した入力方式  
調査対象：東京都診療放射線技師会員が所属する医療機関  
調査対象施設数：468  
有効回答数：120  
回答率：25.6%

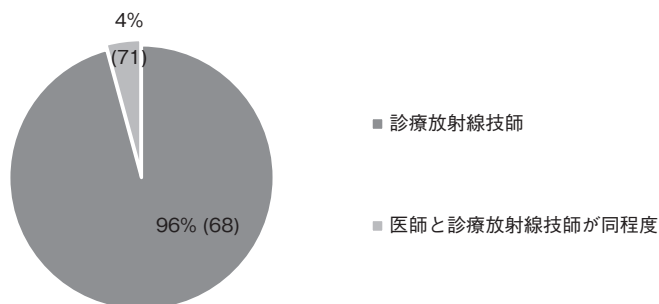
### ・回答して頂いた施設の内訳

施設形態	施設数	診療放射線技師人数平均（人）
病院（500床以上）	10	46.5
病院（200～499床以下）	35	21.3
病院（199床以下）	33	12.0
健診施設・クリニック	42	5.0

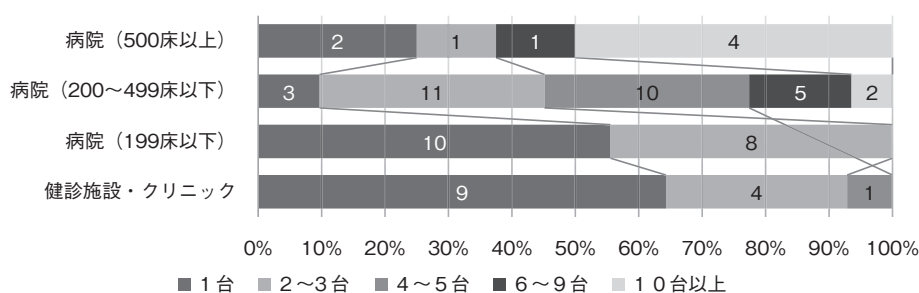
### Q1 貴施設はワークステーション作業（手術支援画像等）は行っていますか？（n=120）



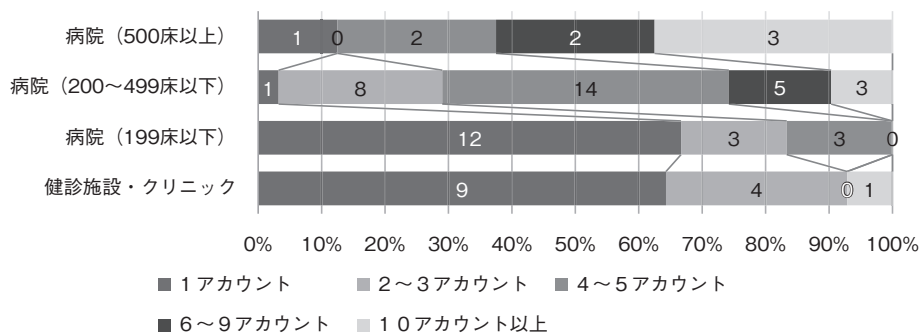
**Q2** 貴施設のワークステーション作業の主体はどなたですか？ (n=71)



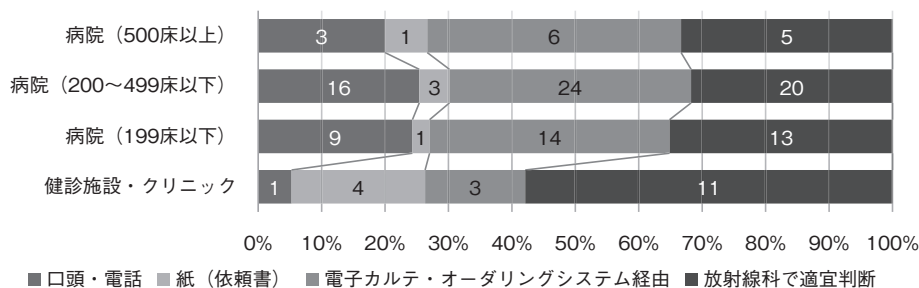
**Q3** ワークステーションの設置台数は何台ですか？ (n=71)



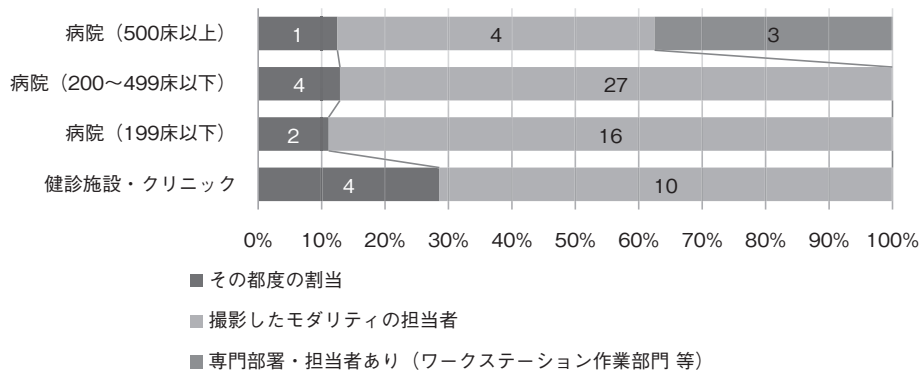
**Q4** 同時起動アカウント数は何アカウントですか？ (n=71)



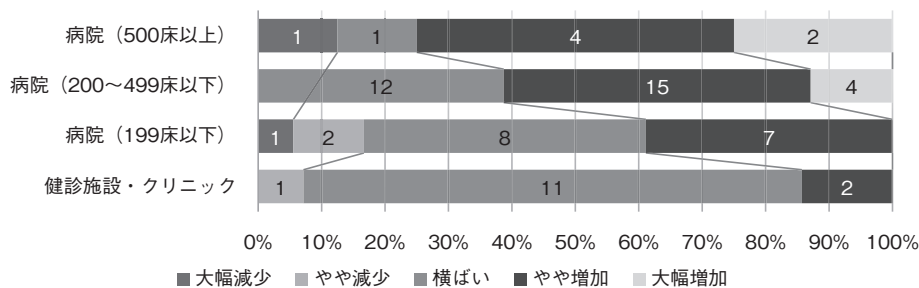
**Q5** ワークステーション作業依頼の受付経路はどれですか？ (n=71)



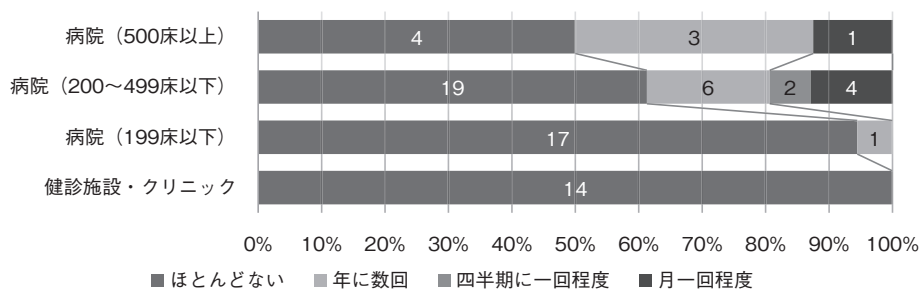
**Q6** ワークステーション作業の担当体制はどれが最も多いですか？ (n=71)



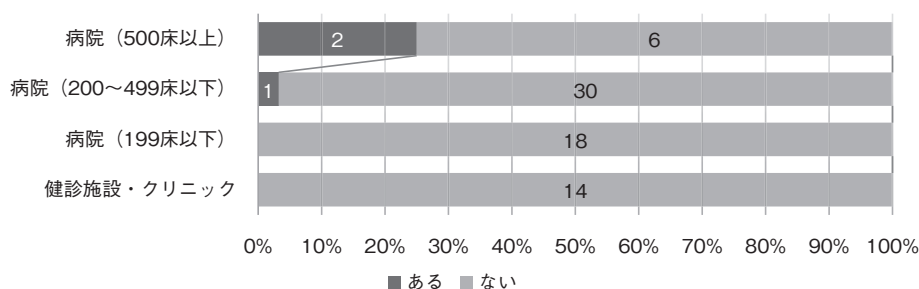
**Q7** ワークステーション作業の依頼数の推移 (直近3年) で該当するものを選択してください (n=71)



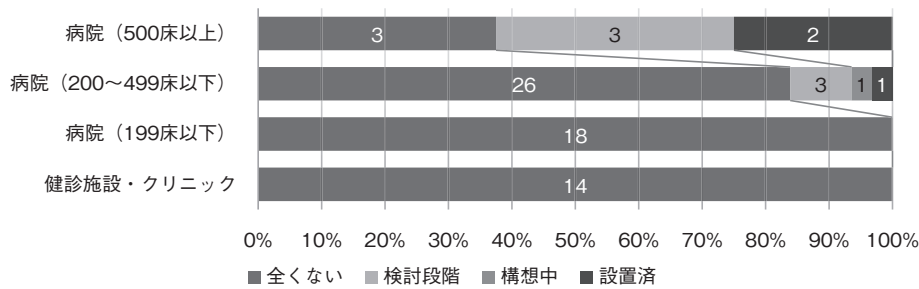
**Q8** 術前カンファレンス等で、作成内容の事前すり合わせはどの程度行われますか？ (n=71)



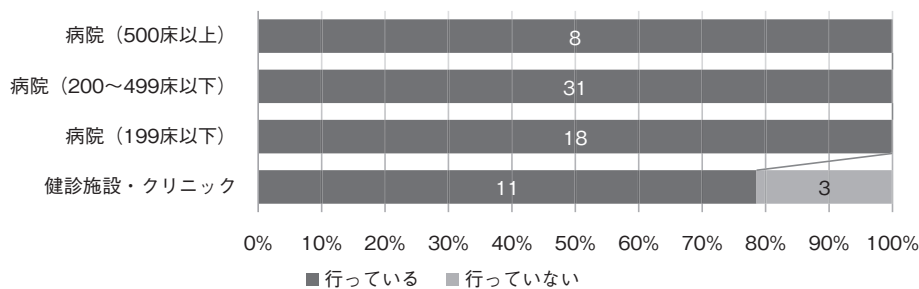
**Q9** ワークステーション作業部門はありますか？ (n=71)



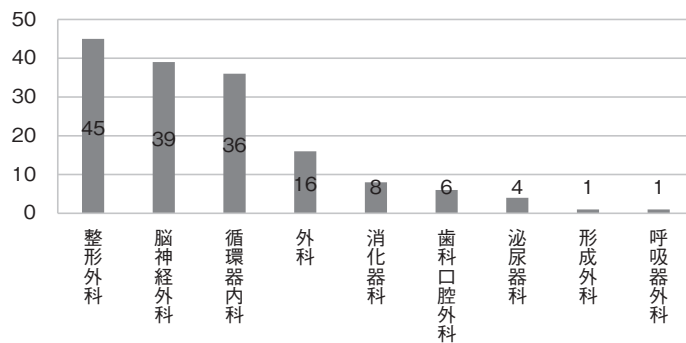
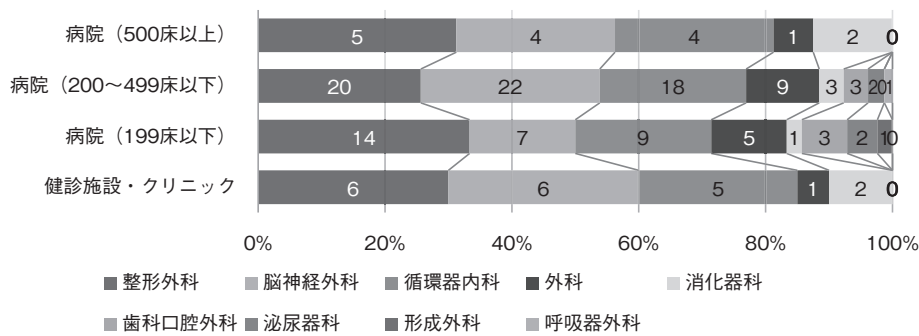
**Q10** ワークステーション作業部門の検討状況を選択してください (n=71)



**Q11** 貴施設はCTワークステーション作業を行っていますか？ (n=71)

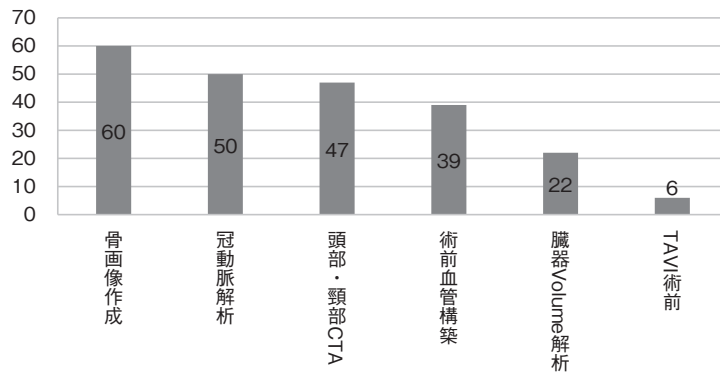
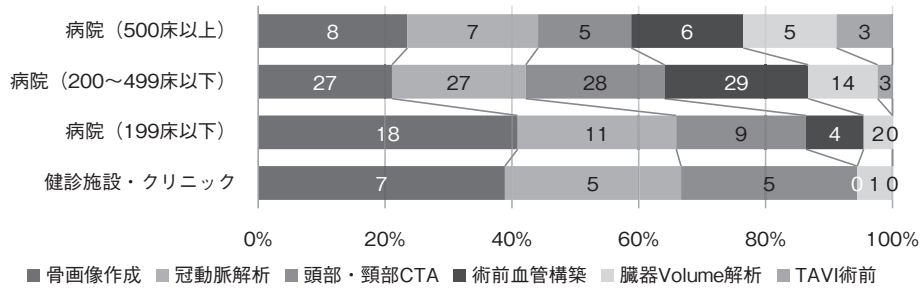


**Q12** 作成している科で多い順に3位まで選択してください (n=68)



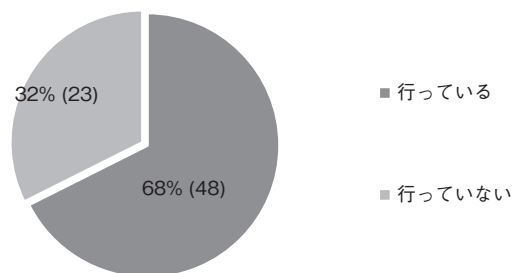
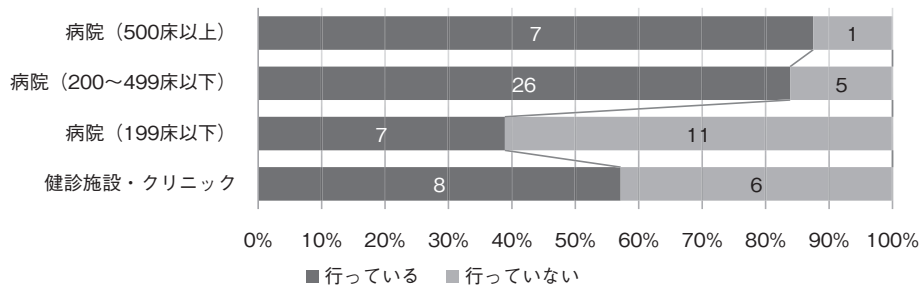
その他 健診業務・健診・血管外科・耳鼻科・総合診療科・心臓血管外科・呼吸器外科・耳鼻咽喉科

**Q13** ワークステーションで作成している項目を選択してください (n=68)

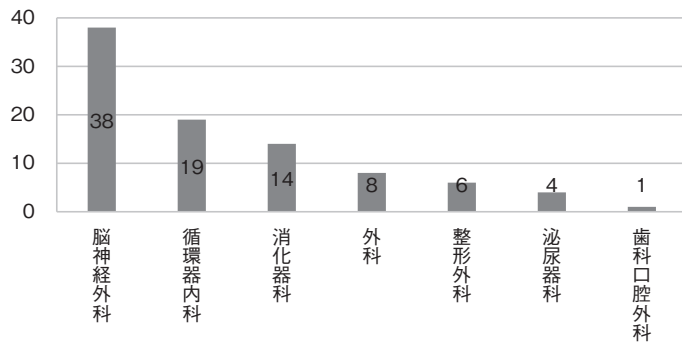
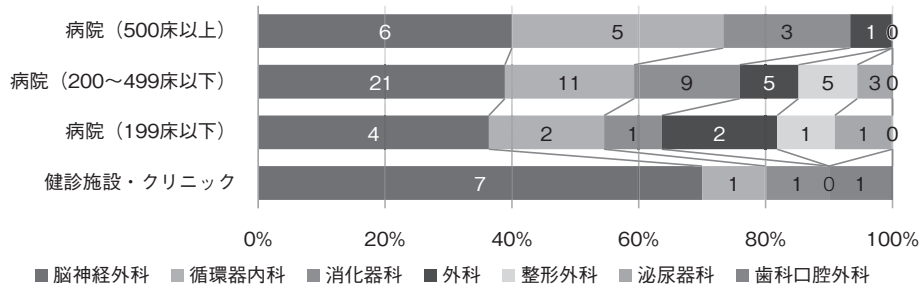


その他 下肢CTA・大動脈・CTU・結石体積測定・内臓脂肪測定・COPD解析・大腸CT・大腸解析・CTC・出血量の確認目的

**Q14** 貴施設はMRIワークステーション作業を行っていますか？ (n=71)

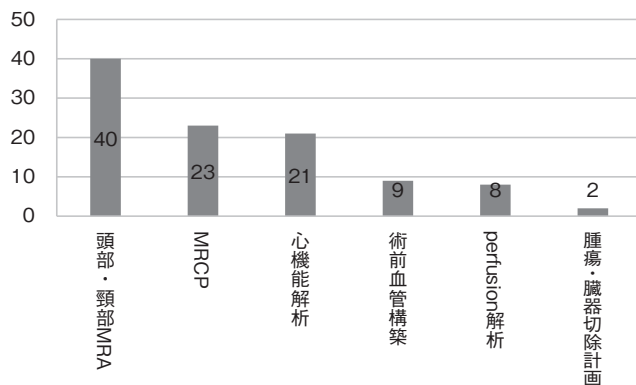
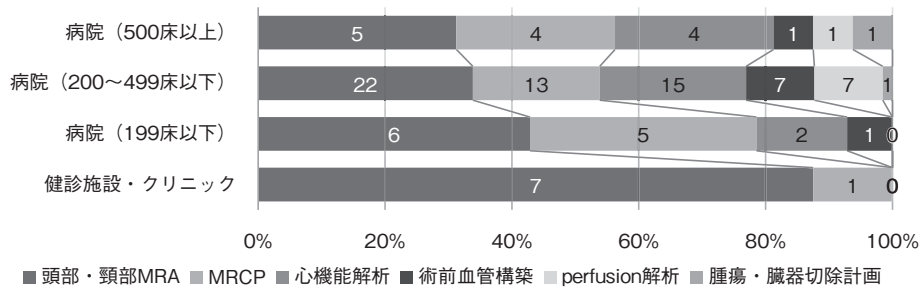


**Q15** 作成している科で多い順に3位まで選択してください 複数選択可・最多3個 (n=48)

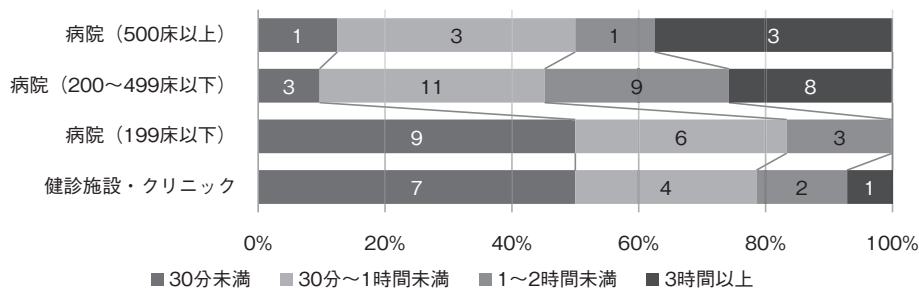


※選択肢「形成外科」「呼吸器外科」への回答は0件であったためグラフから除外した  
その他 心血管外科・乳腺外科・腎臓内科・総合診療科・健診・内科

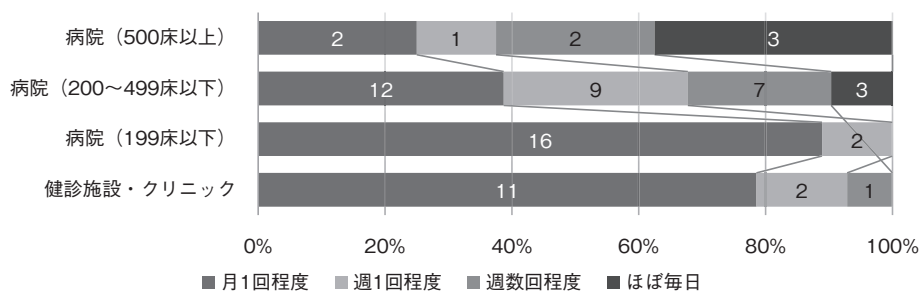
**Q16** ワークステーションで作成している項目を選択してください 複数選択可 (n=48)



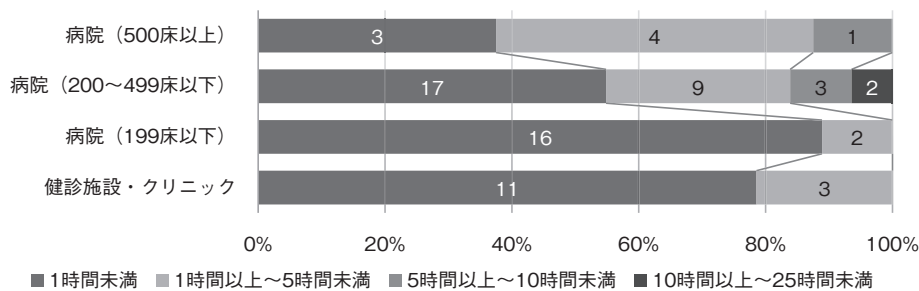
**Q17** 貴施設の診療放射線技師1人あたりの平均的な1日における、ワークステーション作業の作業時間はどの程度ですか？ (n=71)



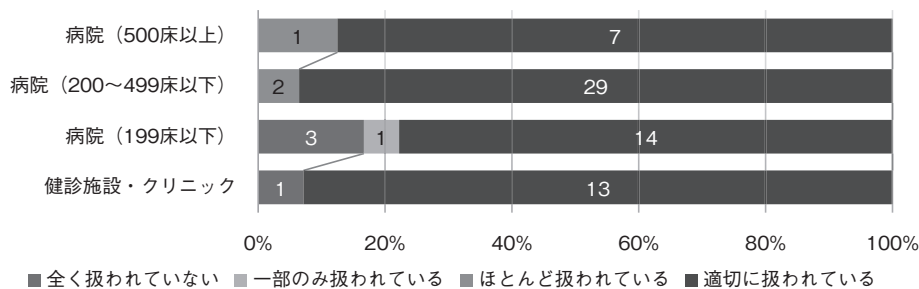
**Q18** 貴施設では、ワークステーション作業に伴い超過時間が発生する頻度はどの程度ですか？ (n=71)



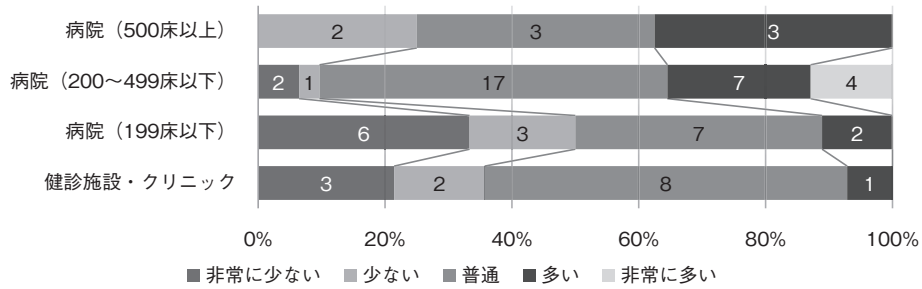
**Q19** 貴施設の診療放射線技師1人あたりで、ワークステーション作業による月平均の超過時間はどの程度ですか？ (n=71)



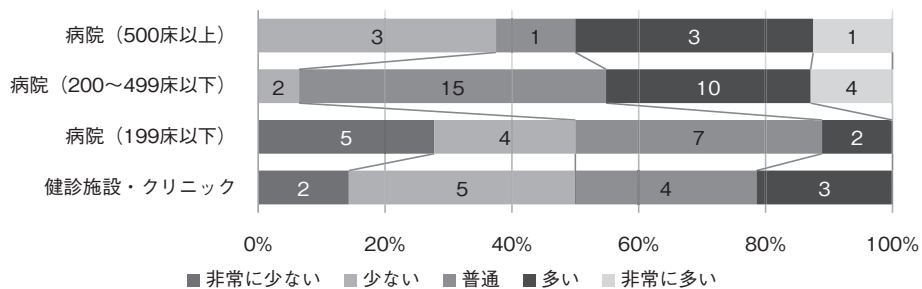
**Q20** 貴施設では、定時後のワークステーション作業は「時間外手当」として適切に扱われていますか？ (n=71)



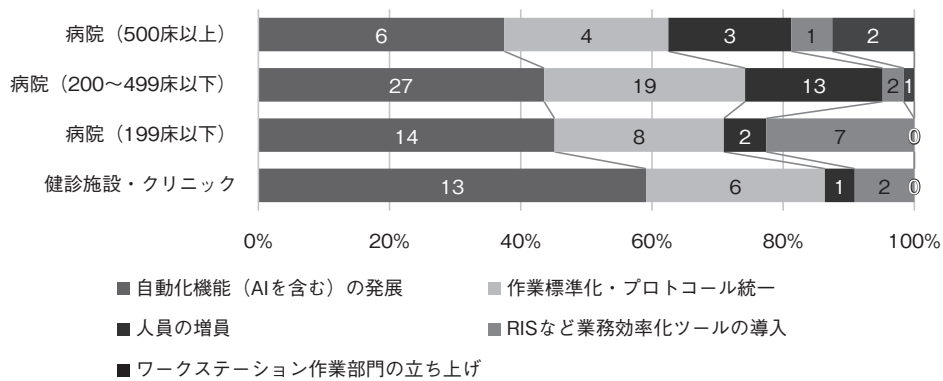
**Q21** ワークステーション作業によるスタッフの業務負担感はどの程度ですか？ (n=71)



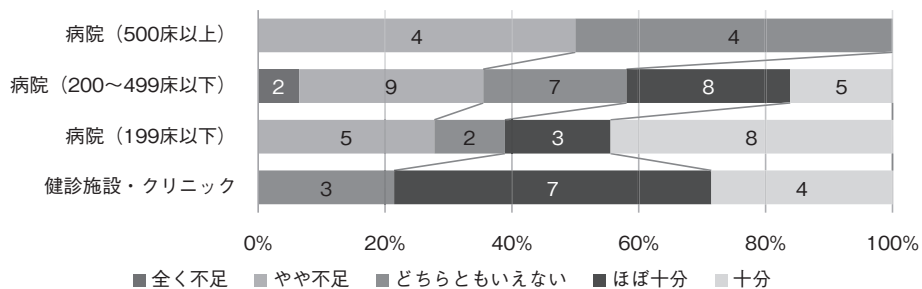
**Q22** ワークステーション作業が貴施設全体の業務効率に与える影響をどのように評価しますか？ (n=71)



**Q23** 今後、ワークステーション作業の業務効率改善に向けて期待することはどれですか？ 複数回答可 (n=71)

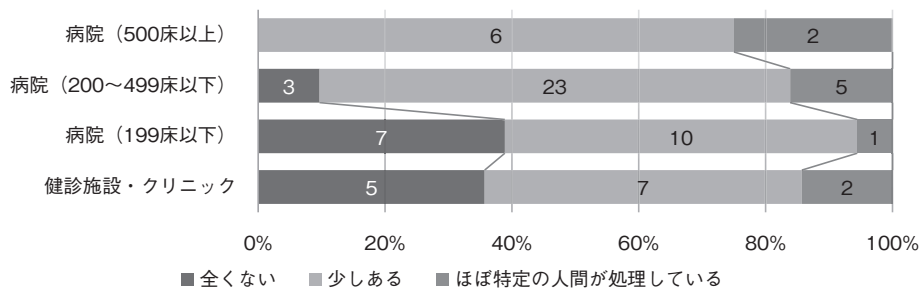


**Q24** ワークステーション作業を担う人員数は足りていますか？ (n=71)



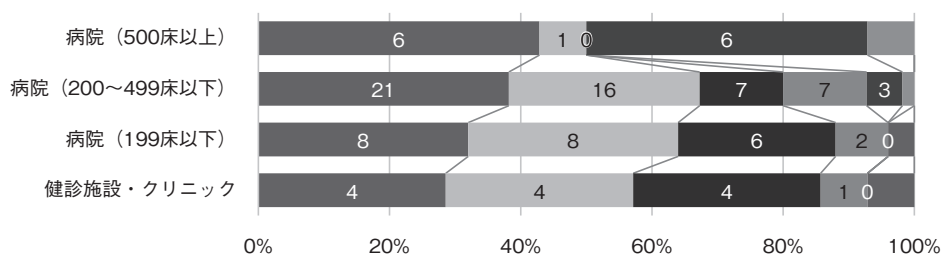
Q25

貴施設では、ワークステーション作業の「属人化（特定の人しかできない処理がある）」はありますか？ (n=71)

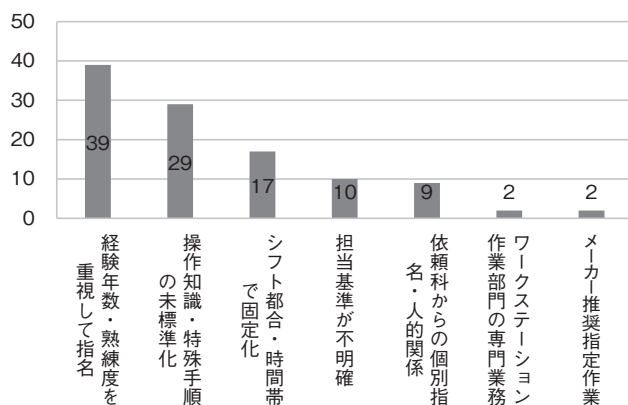


Q26

ワークステーション作業が属人化している場合、その主な基準・原因はどれに当てはまりますか？ 複数回答可 (n=71)

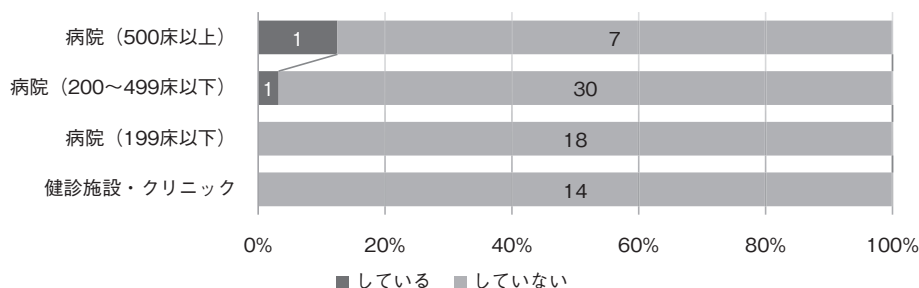


- 経験年数・熟練度を重視して指名
- 操作知識・特殊手順の未標準化
- シフト都合・時間帯で固定化
- 担当基準が不明確
- 依頼料からの個別指名・人的関係
- ワークステーション作業部門の専門業務
- メーカー推奨指定作業

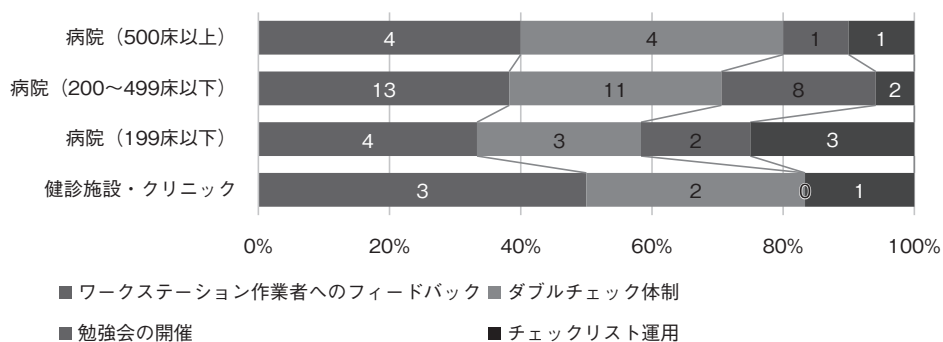


Q27

画像の作成時間の記録は行っていますか？ (n=71)

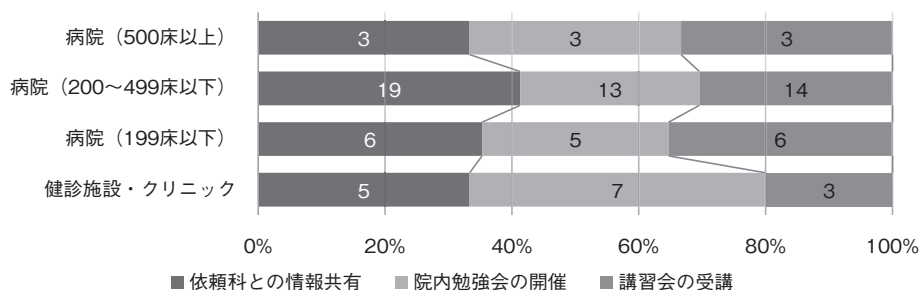


**Q28** ワークステーション作業の品質を保つ取り組みを以下から選択してください 複数選択可 (n=71)



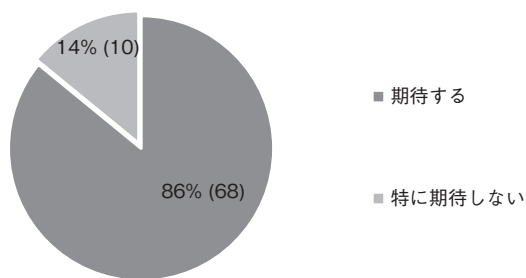
※選択肢「マニュアルの策定」への回答は0件であったためグラフから除外した

**Q29** ワークステーション作業の効率向上に役立つと感じる取り組みはどれですか？ 複数回答可 (n=71)

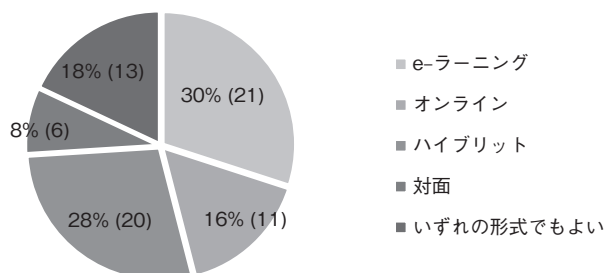


※選択肢「マニュアルの策定」への回答は0件であったためグラフから除外した

**Q30** 今後、技師会にワークステーション作業の講習会の開催を期待しますか？ (n=71)



**Q31** 今後、ワークステーション作業の講習会を開かれる場合、どのような形式がよいですか？ (n=71)



## ●考察

### 1. 実施状況と運用体制の現状

ワークステーション作業の実施有無については、全体の59%（71施設）が行っていると回答した。施設形態別に見ると、200床以上の病院では8割以上（200～499床：89%、500床以上：80%）が実施しているのに対し、健診施設・クリニックでは33%となっており、施設規模による実施率の傾向に54ポイントの差異が見られた。

実施している施設における担当体制は、撮影担当者が兼務で80%（57施設）を占め、専従者（専門部署・担当者あり）は4%（3施設）であった。

また、今後のワークステーション作業部門設置については86%（61施設）が全く（検討が）ないと回答している。この結果は、多くの施設において専門部署の設置ではなく、既存の組織体制内での運用が選択されていることを示唆している。

このような状況を踏まえ、今後は専従化のみを理想とするのではなく、各施設の規模や兼務体制の実情に即した効率的な運用モデルの構築が重要になると考えられる。

### 2. 求められる「標準化と効率化」

兼務体制の中で、直近3年間の依頼数は48%（34施設）で増加（やや増加・大幅増加）との回答が得られた。この需要増への対応として、現場のニーズは必ずしも人の補充だけにあるわけではないことが推察される。人員の充足状況を見ると、「十分」「ほぼ十分」と回答した施設が49%（35施設）であるのに対し、「全く不足」「やや不足」は28%（20施設）であった。

また、業務効率改善への期待においては、作業標準化・プロトコル統一が52%、自動化機能（AIを含む）の発展が85%となり、人員の増員の27ポイントを上回る結果となった。

これらは、現在の体制を維持しつつ、業務プロセスの改善（標準化・自動化）によって効率を高めようとする現場の意向が反映された結果であることが示唆される。

### 3. 属人化の現状とスキルの汎用化

業務プロセスの改善を進める上で、考慮すべき点として属人化が挙げられる。属人化（特定の人しかできない処理がある）があると回答した施設は79%（56施設）であった。その背景には、経験年数・熟練度を重視して指名55%（39件）や操作知識・特殊手順の未標準化41%（29件）が見られる。

診療科からの高度な要求に応えるため、特定の個人のスキルが活用されている側面はあるものの、担当者不在時の対応など、継続的な運用の観点からは課題も見られる。

現状の兼務体制において安定的な運用を行うためには、特定の担当者に依存するだけでなく、誰でも一定レベルの画像が作成可能な環境（標準化）を整えることが、組織としての安定性向上に寄与すると考えられる。

## 4. 教育支援による技術の底上げ

この標準化を推進する一助として、教育への期待は高い。技師会による講習会には86%（61施設）が期待すると回答しており、その希望形式はe-ラーニング（30%）やハイブリッド（28%）が対面（8%）を上回っている。

時間や場所を選ばない学習環境の整備は、兼務で多忙な技師たちが個人のペースで技術を習得するために有効である可能性が考えられる。

総じて、ワークステーション作業の展望としては、教育と技術活用によって誰もが遂行可能な標準業務へと展開していくことが望まれる。技師会としては、そのための学びの場と情報の共有を支援していくことが、会員施設の現状に即した有益なサポートになると考えられる。

### ●ご意見等

- ・ 代表的な処理の標準化があると、病院間で画像が違うことは無くなると思う。
- ・ 手術支援画像というほどではないが、ヘルニア（鼠径、腹壁、陰囊）などのオペ用にCTでサジ、コロ等を鮮明化してアップしている。
- ・ 昨今、AIにより作業時間は短縮していると感じます。
- ・ 検査画像作成のワークステーションは放射線科にあります。手術支援のナビゲーションシステムはオペ室にあります。rawデータをオペ室に渡し、ドクターが操作しています。
- ・ ワークステーション画像支援はデモをして導入を検討中です。
- ・ ワークステーションでの作業で一番影響するのは機器の性能だと思います。サブトラクションも骨抜きも上手く出来ないワークステーション風の機器だと必要以上の時間が取られてしまうと、医師からも労力以下の評価しかもらえない。
- ・ AIの進歩を望むとともに、施設での重要性を管理者が認識しスムーズに導入して頂きたい。

### ●謝辞

この度の調査にご理解を頂き、多大なるご協力ご支援を頂きました各施設の管理者様及び担当者様に厚く御礼申し上げます。これからも厚生調査委員会の活動にご理解ご指導頂きますよう重ねてお願い申し上げます。